

語用論的標識としての漢語「無理」の歴史

著者	橋 圭子, 東泉 裕子
著者別名	Keiko TAKAHASHI, Yuko HIGASHIIZUMI
雑誌名	東洋大学人間科学総合研究所紀要
巻	23
ページ	53-74
発行年	2021-03-19
URL	http://doi.org/10.34428/00012355

語用論的標識としての漢語「無理」の歴史

高橋 圭子*・東泉 裕子**

1. はじめに

現代日本語における「無理」という語の意味は、例えば『広辞苑第七版』(2018)では(1)のように記述されている¹。『デジタル大辞泉』『大辞林』などの記述もほぼ同様である²。

- (1) a. 道理のないこと。理由のたたないこと。「無理を通す」「無理を言う」「怒るのも無理はない」
 b. 強いて行うこと。「無理をして体をこわす」「無理に連れ出す」
 c. 行いにくいこと。するのが困難なこと。「無理な頼み」「子供には無理だ」

『広辞苑第七版』(2018)

ところが、近年、こうした記述にあてはまらない、新しい「無理」の意味・用法が注目されている。例えば、『現代日本語書き言葉均衡コーパス (The Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese: BCCWJ)』『日本語日常会話コーパス モニター公開版 (Corpus of Everyday Japanese Conversation: CEJC)』や『名大会話コーパス』には、(2)～(4)のような用例がある³。

- (2) a. IC 01_徹 #じゃああのアーケードのドラムとかはできんの#
 IC 02_大場 #無理#

* 人間科学総合研究所客員研究員

** 明治大学総合数理学部兼任講師

¹ 引用は、表記など改めた箇所がある。下線も、稿者によるものである。以下同じ。

² 品詞は、『大辞泉』『大辞林』は名詞・形容動詞とし、形容動詞を認めない立場の『広辞苑』は名詞としている。

³ ここで引用した各コーパスについては4節で説明する。会話コーパスには話者交代などを本文に補足する。「話者ID」およびそれに続く話者情報は下線部の発話のものである。記号「#」は「発話単位区切り記号」であり、「音響的・韻律的な境界」(Japanese Discourse Research Initiative 2017: 16)に相当する。

IC 01_徹 #あれ#

IC 02_大場 #わかんないもん#

【CEJC】 会話 ID: T 010_004, 話者 ID: IC 02_大場, 20-24 歳, 男性

- b. 聖: だってまず じゃ 自分が父親になって 娘が結婚する前日って想像しても 俺結婚に出したくないもん! 娘を

淳: でも 出したくないつってもさ~ 出さなきゃいけないわけじゃん?

聖: や 無理無理!

【BCCWJ】 サンプル ID: OY 04_04534, Yahoo! ブログ, 2008 年

- (3) a. 「お前、しっかりしろよ」「無理」「お前、飯くらい食えよ」「無理」「お前、少しくらい寝ろよ」「無理」 【BCCWJ】 サンプル ID: OB 6 X_00247, 金原ひとみ『蛇にピアス』, 2004 年

- b. IC 05_美香 #おいでおいで#

IC 01_玲子 #無理無理#

IC 02_夏樹 #背負って#背負って#

IC 04_美沙 #あ#でも玲ちゃんもう売るものないんじゃない#

【CEJC】 会話 ID: C 001_001, 話者 ID: IC 01_玲子, 40-44 歳, 女性

- (4) a. IC 02_遥 #もうロロボットはしわなんかあったらいけないんだからつつるつるになんないと#

IC 03_美佳 #うーん#しわ#ね#ほんとやよね#

IC 02_遥 #うん#

IC 01_日野 #ツルつるつるもちよっとね不気味だよ#

IC 02_遥 #無理# 【CEJC】 会話 ID: C 002_006 a, 話者 ID: IC 02_遥, 55-59 歳, 女性

- b. F 046 #まあ子どもも欲しいけどね。#

F 086 #そうなんだよねー。#

F 046 #子どもがない生活嫌じゃない?#

F 086 #無理だね。#

F 046 #無理、無理、無理、無理。#絶対つまんないよねー。#

【名大】 会話 ID: data 072, 話者 ID: F 046, 10 代後半, 女性

(2)は(1c)と同様の「難しい・できない・不可能である」という意味であるが、コンピュータなどを伴わない裸の形式で用いられており、感嘆符と共に起することが多く、話し手の感情の高まりを示していると考えられる。(3)も「できない」という意味で、命令・指示・依頼・提案・勧誘などの行為指示に対する断り・拒否・不承諾として機能している。(4)は「できない」という意味から拡張し、「我慢できない、耐えられない、いやだ」という不快・嫌悪・拒絶のマイナス評価を示している。

さらに、Twitter における「無理」の用例を調査した大島(2019)は、「かわいすぎてむり」「好きすぎてむり」のような用法の登場を指摘している。これは、「できない」という意味から拡張し、「感

情を制御することができないほど素晴らしい・うれしい」といったプラス評価を示している。稿者も、2020年7月に東京都内のA大学に在籍する女子学生約30名を対象として「無理」の用法に関する調査を行い、回答者の内省による(5)のような例を得た。

- (5) a. A: 今日、誕生日だね? はい、プレゼント。お誕生日おめでとう!
 B: えっ、無理。ありがとう!!! (東泉・高橋 2020)
 b. [好きなアイドルを見かけて] B: えっ、無理無理! (東泉・高橋 2020)

(2)～(5)には「無理」単独と重複 (reduplication) の形式があり、コピュラや助詞を伴わない裸の形式で、句読点やポーズによって前後を区切られ、独立成分的に、つまり「感動詞的」に用いられている。

本稿では、「無理」の用例を通時的に観察し、意味・用法の拡張過程について考察する⁴。

2. 先行研究

「無理」の歴史をたどるために、まず、(6)に挙げる国語辞典・古語辞典・漢和辞典の記述を調査する。【 】は本稿で用いる略称である。(6)の辞典類の「無理」の記述をまとめたものが(7)である。

- (6) a. 諸橋轍次『大漢和辞典』 [大漢和]
 b. 『日本国語辞典第二版』 JapanKnowledge Lib [日国]
 c. 『角川古語大辞典』 JapanKnowledge Lib [角川]
 d. 『時代別国語大辞典 室町時代編』 [室町]
- (7) a. 道理に反すること。筋が通っていないこと。また、そのさま。
 ・韓愈「答柳柳州食蝦蟇詩」(819)「鳴声相呼和、無理祇取鬧」…【大漢和】・【日国】
 ・文明本節用集(1474)「無理ムリ」…【日国】・【室町】
 ・史記抄(1477)一五・資田「資嬰灌夫二公は、無理なる罪に逢たぞ」…【日国】・【角川】
 ・和漢通用集(1596–1644)「無理 むり 道理なき也」…【室町】
 ・日葡辞書(1603–04)「Muri (ムリ)。コトワリナシ」…【日国】・【室町】
 b. しいて行なうこと。強引に事をなすこと。道理のないことや相手に受け入れる気のないことなど、実現不可能ないし実現困難なことを強引に行うさま。また、そのさま。
 「無理に」の形で用いられることが多い。…【角川】・【室町】

⁴ 書き言葉のデータでは「むり」「ムリ」といった表記もあるが、本稿の記述では「無理」の表記で代表させる。なお、大島(2019)は、Twitterにおける「無理」の表記と意味の関係を調査したものである。

- ・顔氏家訓(600頃)省事「若横生図計、無理請謁、非吾教也」…【大漢和】・【日国】
- ・三国伝記(1407-46頃か)六・一「地獄を作りて、凶人を獄率と為し、無理に罪人を墮す」…【日国】
- ・史記抄(1477)呂不韋伝「無理な所望をしたぞ。此姫を我にくれよと云ぞ」…【角川】
- c. 実現不可能ないし実現困難であるさま。できない。
 - ・評判記・剥野老(1662)跋「かかるこはごはしきむばらの口はあくが無理なれども、ただうちあらはれたる玉のきずをのみしるすなめり」…【日国】
 - ・槐記・享保一二(1727)・閏一・二八「(ソノ書ノ流儀ハ、楷書カラデハナク)先(まづ)草・行から習ひ初るだにむりなるべき事也」…【角川】

(7)に見るように、「無理」という語は中国の漢詩文に由来する漢語である⁵。(7a)の韓愈の詩、(7b)の『顔氏家訓』の書き下し文・注・現代語訳をまとめると、それぞれ(8)・(9)のようになる。

- (8) a. 鳴聲相呼て和す 理無く祇闘ふを取る⁶ 長澤(編)(1975:157)
- b. 鳴聲 相い呼びて和し, 理 無くして只だ闘^{どう}を取るのみ。
 鳴き声は呼びあって合唱し、筋みちも何もなく、ただやかましいだけだ。
 漢文委員会 <http://blog.livedoor.jp/kanbuniinkai/10-rihakujoiseishi/archives/7050730.html>
- (9) a. 横^{ほし}まに図計^{とけい}を生じ、理無く^{せいまつ}請謁するが若きは、我が教に非ざるなり。
 みだりに謀略を用いたり、無理に頼み込んだり 宇野(1982:160-161)
- b. 横^{みだ}りに図計を生み理なくして^{たのみこみ}請謁する者の若^{ごと}きは、吾が教えの関知するところにはあらず。
 宇都宮(1990:21)
- c. 理不尽な計画や道理にはずれた頼みごとは、わしの教えに反するので助けたりする必要はない。
 林田(2018:122)

(8)・(9)の訓読法がいつ頃発生・定着したかは不明だが、いずれも「無理」という文字列を「無」「理」それぞれ一語として、日本語の語順にあわせて訓じている。「無理」がこのままの順序で「ムリ」と字音語読みされて一語化するのは、(7)によれば、室町時代のようなものである。(7)からは、「無理」という漢語は室町時代には(7a)・(7b)の意味で用いられ、江戸時代以降(7c)の意味が出現したことがわかる。

次に、現代語について、中型の『広辞苑』『大辞林』『大辞泉』、小型の『三省堂国語辞典 第七版』『新明解国語辞典 第七版』『明鏡国語辞典 第二版』『岩波国語辞典 第八版』の、計7種類の

⁵ 「無理」という文字列については、『淮南子』(紀元前2世紀)に「金積折簾、璧襲無理」という例がある。戸川他(1974, p.82)、楠山(1981, p.313)によれば、この「理」は文様の意である。

⁶ (8a)の書き下し文は稿者によるもので、原文は訓点が施された漢文である。

辞典を調査する。辞典の選定理由は、中型の3種類は電子辞書やウェブサイトにも搭載され利用者数が多いと想定されるため、小型の4種類は新語や新用法を早期に取り入れる傾向があるためである。調査の結果、これらの辞典の記述は(1)と同様のものがほとんどであった。(7)に見られる3種類の意味が、現代にも引き継がれていると言えるだろう。(2)～(4)のような新しい用法について記述した辞典は、(10)に挙げる2例が見出された⁷。(5)のような肯定的意味を記述した辞典は、今回の調査では見当たらなかった。

- (10) a. むり【無理】(2)《感動詞的に》不可能であることや同意できないことを表す。「無理、できない」「それは、無理」▽ (2)は近年、若者を中心に広まる。

『岩波国語辞典』第八版(2019)

- b. むり【無理】(名・自サ・形動ダ) 4.(俗) いやなようす。受け入れられないようす。「女子を呼び捨てにする男子って、無理!」 『三省堂国語辞典』第七版(2014)

管見では、「無理」の(1)および(7)に見られるような3種類の意味について取り上げた論文は見当たらないが、(2)～(5)のような新しい意味・用法については、柏野(2020)、東泉・高橋(2020)などがある。

まず、柏野(2020)は(2a)・(4a)を「応答表現」の例として挙げている。「応答表現」とは、「相手の発話に応じ、何らかの反応を返す表現」(柏野2019, p.368)と定義されている。柏野(2019, 2020)では「うん」「はい」「ああ」などの狭義の感動詞⁸だけでなく、「ですね」「だろうね」などのいわゆる文末表現や、「いいね」「さすが」「すごい」「なるほど」「確かに」「了解」「もちろん」「だいじょぶ」「だめ」なども「応答表現」に含まれるとしている。

また、東泉・高橋(2020)は(2)～(5)のような「無理」の用法について、東京都内のB大学に在籍する男女学生約250名を対象として調査を行っている。これによれば、「使うことがある」「知っている」という回答は、(2)・(3)のような「できない」や行為指示に対する断りではほぼ100%、(4)のようなマイナス評価では93%以上、(5)のようなプラス評価は、(5a)は「使うことがある」が約21%、「知っている」が約55%、(5b)は「使うことがある」が約40%、「知っている」が約50%であったという。これらの新しい用法は一般の大学生にもある程度以上浸透していると言えそうである⁹。

ここまでの観察から「無理」の意味・用法の拡張を暫定的にまとめると、表1のようになる。次節

⁷ 『岩波国語辞典第八版』は柏野和佳子氏のご教示による。なお、(10)の表記は改めた箇所がある。下線も稿者による。また、ウェブサイトの「テレビ朝日 日本語研究室」にも、(4)の意味・用法についての記事が掲載されている。

⁸ 例えば『日本語学大辞典』(2018, p.191)は感動詞を、「ああ」「へえ」「ほほう」などの「原生感動詞」と「あれっ」「どれ」「ほんと」など他の品詞から転成した「転成感動詞」に分けている。前者が狭義の感動詞である。なお、感動詞の定義や含まれる表現についてはさまざまな議論がある(例えば、定延(2015:3)を参照)。

以下では、各種の用例調査から、表1の精緻化や修正を図る。

表1 「無理」の意味・用法の拡張(暫定版)

段階	I	II	III	IV	IV'	IV''	IV'''
主な形式	「理無し」	「無理に」	連体・述語	「感動詞的」	「感動詞的」	「感動詞的」	「感動詞的」
意味・機能	道理がない	強いて	できない	できない	断り	マイナス評価	プラス評価
登場	室町	室町	江戸	現代	現代	現代	現代
用例	(1a)・(7a)	(1b)・(7b)	(1c)・(7c)	(2)	(3)	(4)	(5)

3. 古代から近代の「無理」の用例

3.1 調査データ

調査に用いるデータベースおよびコーパスを(11)にまとめる。【 】は本稿で用いる略称である。

- (11) a. 国文学研究資料館「日本古典文学大系本文データベース」【大系】
 b. 国立国語研究所「日本語歴史コーパス (Corpus of Historical Japanese)」データバージョン2020.3 【CHJ】

(11a)には古代から近世に至る556の多様なジャンルの文学作品が収められており、文体も漢文・和文・和漢混交文など多様である。「無理」「むり」の文字列検索を行い、「かうむり」「つむり」など対象外の語を手作業で削除し、計348例を得た¹⁰。(11b)は古代から近代に至る通時コーパスであり、品詞解析などさまざまなアノテーションが施されている。検索アプリケーション「中納言」2.5.2を用い、前方共起を語彙素「無理」、キー「指定なし」とした。収集された用例を観察するうち、「無理やり」¹¹が一語とされている場合があることがわかり、前方共起を語彙素読み「ムリヤリ」、キー「指定なし」とする検索を追加した。こうして、計1276例を得た。【大系】と【CHJ】で重複する50例を除いた、計1574例が本節での検討対象であり、表2に時代別にまとめた。検索は2020年6～8月に行なった。

⁹ ポストメディア編集部(編)(2018)はサブカルチャー好きでオタク色の強い若い女性の間の集団語を集めたもので、「無理」の語を肯定的・否定的感情の両方を表すものとして取り上げている。また、大島(2019)は自身も肯定的意味を表す用法には違和感があると述べている。ポストメディア編集部(編)(2018)はKimura Youichi氏、大島(2019)は中俣尚己氏のご教示による。なお、ウェブサイトの「ananNEWS」2018年11月10日版にも(5)のような意味・用法についての記事が掲載されており、一部の集団における表現が徐々に一般の注意をひく段階まで広まりつつあることが窺える。

¹⁰ 「ムリ」の文字列検索結果は「むり」と同じであった。「無り」「む理」の文字列検索では「無理」の用例はなかった。なお、「むりむり(と)」というオノマトペもあるが、「無理」との関連は不明であり、本稿では検討対象外とした。

¹¹ 「無理矢理」「無理槍」「無理遣り」などの表記があるが、本稿では「無理やり」で代表させる。

表2 「無理」の用例数

	【大系】	【CHJ】	重複	検討対象
古代（奈良・平安）	2	0	0	2
中世（鎌倉・室町・安土桃山）	5	57	1	61
近世（江戸）	341	196	49	488
近代（明治～昭和初期）		1023		1023
計	349	1276	50	1574

3.2 古代における「無理」の用例

「無理」の古代の用例は、(12)の2例が見出される。ともに原文は漢文であり、「理無し」と訓じられている。表1の段階Ⅰに相当する。

- (12) a. 而不解鐵沈無理浮水、【大系】『万葉集』 卷十八 3878 番歌左注, 8世紀
 しかも鉄の沈みて水に浮かぶ理なきことを解らざりしかば （高木他 1962, pp.160–161）
 b. 五者惡子無理費用 【大系】『日本靈異記』, 822年
 五つには悪しき子 理 無く費し用ゐるをいふ。 （遠藤他 1967, pp.416–417）

3.3 中世における「無理」の用例

表3は【大系】【CHJ】の中世の「無理」の用例をまとめたものである。(13)に主な用例を示す。

表3 【大系】【CHJ】における中世の「無理」の用例数

書名	ジャンル	作者	成立	用例			出典
				無理に	その他	計	
正法眼蔵随聞記	法語集	懷奘	1238	2	無理勤苦 1	3	【大系】
正尊	謡曲	長俊	1541	1	0	1	【大系】
天草版平家物語	キリシタン資料	不詳	1592	0	無理な 1	1	【CHJ】
虎明本狂言集	狂言	虎明	1642	47	無理な 6・無理を 2・無理でござる 1	56	【CHJ】
計				50	11	61	

- (13) a. 唐土ヨリ此國ノ人ハ、無理ニ人ヲ供養ジ、【大系】『正法眼蔵随聞記』, 1238年
 道理もなく。理由もなく。「ムリ、コトワリナシ」（日葡）。 （西尾他 1965, p. 391）
 この国の人は、道理もないのに、他人に供養し、 （永積他 1995, p. 413）
 b. 是非の問答無益なり、ただ御出であれとて、無理に土佐殿をご前へ伴ひ給ひたるに、

【大系】観世弥次郎長俊「正尊」, 1541年

- c. しょうろこびて、太郎くわじやにきせてみたがるを、いやがれども、無理にきせて、

【CHJ】サンプルID: 40-虎明 1642_01016, 「隠笠」『虎明本狂言集』, 1642年

- d. 平家の悪行はこればかりでも御座無い、その上無理な位争いをして、数多の人々を越えて次男宗盛右大将と言う官に上がられた。

【CHJ】サンプルID: 40-天平 1592_01003, 『天草版平家物語』, 1592年

- e. わたくしがはたへはへたを、とらすまひと申はむりで御ざる、あれがやぶへまいつて、あれがちで御ざらば、申所きこえて御ざるが、私が畠で御ざる

【CHJ】サンプルID: 40-虎明 1642_07019, 「竹の子」『虎明本狂言集』, 1642年

(13a)に見るように、『正法眼蔵随聞記』(1238)では「無理」はすでに「ムリ」という一語として扱われている。表1の段階ⅠとⅡの間に、読み「ムリ」・意味「道理がない」の段階があることがわかる。

(13b)・(13c)の「無理に」は「強いて」の意であり、表1の段階Ⅱにあたる。『虎明本狂言集』では、「無理」56例中「無理に」は47例、84%を占める。

(13d)・(13e)は「無理に」以外の「無理」の用例である。意味は「道理がない」と解釈できる。

3.4 近世における「無理」の用例

表4は【大系】【CHJ】の近世の「無理」の用例488の内訳をまとめたものである。【CHJ】の江戸時代が「近松」「洒落本」「人情本」の3つのサブコーパスより成るのに倣い、表4においても4つの時代区分を設けて集計した。表4からは、中世同様「無理に」の形式の副詞用法が多用されている一方、補語や述語での名詞用法も増加傾向にあることがわかる。例を(14)に示す。

- (14) a. 照忠「そりや無理だ、我侬だ」 【大系】作者不詳『歌舞伎十八番集 暫』, 1697年

- b. 「これはおまへの御無理。成程一通りおはらのたつは御尤。(略)」

【大系】柳沢淇園『ひとりね』, 1724年

- c. ゆかりのいろも七ツやの、名にながれたるすみだ川、たがいに無理を五百崎の¹²、鐘は四ツ目や長命寺、

【大系】山東京伝『江戸生艶気樺焼』, 1785年

- d. よね「それだから無理だとは言やアしませんへネ」

【大系】【CHJ】為永春水『春色梅児誉美』, 1832-33年

「無理」の述語用法には、(14a)のようにコピュラを伴うものと(14b)のように伴わないものがある

¹² (14c)の「無理を五百崎」は、「無理を言ふ」と地名の「五百崎」を掛けた表現である。

表4 【大系】【CHJ】における近世の「無理」の用例数

	時代区分	A		B		C		D		計	
	主な作品	西鶴作品など		近松作品など		洒落本など		人情本・滑稽本			
	収録年代	1623－98		1702－53		1757－1826		1821－64			
用法・形式		用例数	%	用例数	%	用例数	%	用例数	%	用例数	%
副詞	無理に	26	42	35	29	65	40	39	27	165	34
	無理やりに	2	3	9	8	13	8	2	1	26	5
	無理無体に	0	0	6	5	8	5	1	1	15	3
	無理無三	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0
	小計	28	45	51	43	86	53	42	29	207	42
連体修飾		13	21	7	6	10	6	14	10	44	9
名詞	補語	7	11	31	26	17	10	36	25	91	19
	述語	6	10	18	15	31	19	37	26	92	19
	小計	13	21	49	41	48	30	73	51	183	38
	複合名詞	6	10	11	9	15	9	15	10	47	10
複合語	サ変動詞	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0
	その他	2	3	0	0	0	0	0	0	2	0
不明		0	0	1	1	3	2	0	0	4	1
計		62	100	120	100	162	100	144	100	488	100

る。後者のような用法がやがて現代の「感動詞的」用法につながっていくのではないかと推測されるが、現時点では確証はない。さらなる調査が必要である¹³。意味のうえでは、(14a)は「我俣（わがま）」と同義、(14b)は「尤（もっとも）」と対義で用いられていることから、この2例は「道理がない」の意であると考えられる。(14c)・(14d)は(7c)「不可能だ、できない」の意味の用例として【日国】に挙げられているものである¹⁴。

また、副詞用法に「無理やりに」「無理無体に」など部分重複（partial reduplication）の形式が見られることも注目される。さらに、サ変動詞や「無理言ひ」「無理酒」「無理がまし」「無理まじり」など和語との複合語も出現しており、漢語「無理」の和語化が窺える。

3.5 近代における「無理」の用例

表5は、【CHJ】における近代の「無理」の用例をまとめたものである。(15)に示すように、「無理

¹³ 柴崎（2017：124）も、「事実」の構文変化における文末のコピュラの省略に注目している。

¹⁴ 近世以降の「無理」の用例は、現代語訳においても「無理」とされていることが多く、複数の解釈が可能であるため、意味の分類を数値化して表に示すことは本稿ではできなかった。今後の課題としたい。

無理に」という重複形式の例があり、(16)に示すように、辞典類にはコンピュータの「に」を伴わない裸の形式「無理無理」という副詞用法の記述もある。しかし、現代のような「感動詞的」用法の用例は今回の調査範囲では見出せなかった。裸の形式・重複形式という形式は同じだが、副詞用法と「感動詞的」用法の関連の有無は不明である。

表5 【CHJ】における近代の「無理」の用例数

用法	主な形式	明治			大正		昭和	計	%
		初期口語	雑誌	教科書	雑誌	教科書	教科書		
		1869-79	1874-1909	1904-18	1917-25	1918	1933-47		
副詞	無理に	7	116	2	105	1	11	242	23.7
	無理やり(に)	0	10	0	12	0	0	22	2.2
	無理無理に など	4	16	0	6	0	0	26	2.5
	小計	11	142	2	123	1	11	290	28.3
連体修飾	無理な など	14	70	0	50	0	1	135	13.2
名詞	補語	3	114	2	195	0	3	317	31.0
	述語	5	119	1	84	0	3	212	20.7
	小計	8	233	3	279	0	6	529	51.7
複合語	複合名詞	18	30	0	17	0	0	65	6.4
	サ変動詞	0	2	0	1	0	0	3	0.3
不明		0	0	0	1	0	0	1	0.1
計		51	477	5	471	1	18	1023	100.0

- (15) 来月から開校といふ前月下旬に入つても、志願者タツタ二十五人！これではならぬと、一同血眼になり、規則書を貰ひに来る者は片つ端から引き止めて、無理無理にも入學の手續をさせ、やつと七十數名を帳簿の上に見たのである。

【CHJ】 サンプル ID: 60 M 女世 1909_16018, 『女学世界』, 1909 年

- (16) a. 生〔1908〕〈田山花袋〉一五「無理無理出て来たのさ」 【日国】

b. ムリムリ 無理無理 無理無体に同じ。人の好悪に関せず。無暗に事をする事。

平凡社（編）（1926 初版、1974 復刻版）『大辞典』

4. 現代における「無理」の用例

現代においては、「無理」の用例が日常的に多数観察される。その中で、(17)は「できない」という意味であり、表1における段階Ⅳに位置づけられる。「感動詞的」用法の用例として、現時点で稿

者が見出した最も早い例である。話し手・聞き手はともに男子高校生という設定である¹⁵。

(17) 友人：また 見とれてる！／おまえ相当 いかれてるな 彼女に／

佐和：ちがうって 言ってるだろ／

友人：無理無理 高根の花だよ／

山岸凉子（1994, p.71：初出 1978 年）

現代における「無理」の新しい意味・用法の用例は、日常会話やウェブサイトに多く見られそうである。そこで、本章では日常会話のコーパスと、小説の会話部分やウェブサイトから用例を収集する。

4.1 会話コーパスにおける「無理」の用例

本節で用いる現代語の会話コーパスを表 6 にまとめる。【 】は本稿で用いる略称である。

表 6 現代語の会話コーパス¹⁶

コーパス名	収録年代	検索対象語数	データバージョン	中納言
現日研・職場談話コーパス（現代日本語研究会（編）2011） 【現日研】	1993–2000	186,906	2018.03	2.4.2
名大会話コーパス（藤村他 2011） 【名大】	2001–2003	1,131,971	2018.02	2.4.2
日本語日常会話コーパス モニター公開版（Corpus of Everyday Japanese Conversation） 【CEJC】	2014–2015	610,959	2018.12	2.4.5

表 7 は、現代語の会話コーパスの「無理」の用例をまとめたものである。3 回以上の重複表現については、重複回数を算用数字で示した。例えば、「無理 3」は「無理無理無理」を表している。重複形式は「感動詞的」用法のほか副詞用法や述語用法にも見られるが、3 回以上の重複は副詞用法には見られない。

ただし、「感動詞的」用法とそれ以外の用法の厳密な線引きは難しい。ここでは暫定的に、(18a)の「うーん、無理。」のように発話境界の内部で感動詞¹⁷とともに用いられたものは「感動詞的」用法、(18d)の「絶対無理」のように感動詞以外の表現¹⁸とともに用いられたものは準「感動詞的」用法とした。(18d)の「絶対無理」は述語用法でもありと考えられる。(18)に挙げる例の、一重下線部は「感動詞的」用法、二重下線部は「述語／準「感動詞的」用法」である。

¹⁵ 「／」は吹き出しの区切り、空白マスは改行を示す。

¹⁶ 「検索対象語数」は、記号・補助記号・空白を除いた数値である。

¹⁷ 感動詞の定義には諸説ある（注 8）が、ここでは、各コーパスのアノテーションで「感動詞」とされている表現とする。

¹⁸ 「絶対」「ちょっと」などの程度副詞を原則とする。

表7 現代語の会話コーパスにおける「無理」の用例

用法	形式	現日研	名大	CEJC	計	%
副詞	無理に	1	6	3	10	2.2
	無理無理に	0	1	1	2	0.4
	無理なく	1	1	2	4	0.9
	無理やり	5	12	2	19	4.2
	無理無理	0	0	2	2	0.4
連体修飾	無理な	3	4	3	10	2.2
動詞	無理する	5	11	8	24	5.3
名詞：補語	助詞などを伴う	0	4	2	6	1.3
名詞：述語	コピュラなどを伴う	22	189	121	332	72.8
述語／準 「感動詞 的」用法	無理	0	5	2	7	1.5
	無理無理	0	0	0	0	0.0
	無理3	0	1	0	1	0.2
	無理4	0	1	1	2	0.4
	無理5	0	0	1	1	0.2
「感動詞 的」用法	無理	1	12	6	19	4.2
	無理無理	0	6	3	9	2.0
	無理3	0	2	2	4	0.9
	無理4	0	2	0	2	0.4
不明		0	1	1	2	0.4
計		38	258	160	456	100.0

(18) a. F10E #これ無理ですねー。#

F10A #うん。#

F10E #ぜったい、無理ですねー。#

F10A #うーん、無理。#

【現日研】会話ID：F10Q141，発話者コード：F10A，42歳，女性

b. F059 #で、お姉ちゃんと今日話してみて。#

F043 #無理。#

F059 #どうして？#

F043 #わからんけど。#

F059 #会えたら話しして。#いい？#

【名大】会話ID：data085，発話者ID：F043，10代後半，女性

- c. F037 #で、先生とこ移れば？
 F128 #移れない、移れない。#
 F037 #なんで？#
 F128 #無理、無理。#
 F037 #あ、そうなんだ。#

【名大】 会話 ID : data 098, 発話者 ID : F128, 20 代前半, 女性

- d. IC 02_大場 #だからあのなんてゆうのその左右交互だけでたぶん無理な譜面があるんだろ
 うね#
 IC 01_徹 #や#だって無理だもん#俺たぶん手四本なってもあれ叩けない#絶対無理#
 C 03_龍之介 #俺も絶対無理#

【CEJC】 会話 ID : T 010_004, 話者 ID : IC 01_徹, 20-24 歳、男性

【現日研】の「感動詞的」用法は(18a)の1例のみで、「無理」単独の形式で「できない」という意味を示している。【名大】では(18b)・(18c)に見るように指示や提案に対する断りの例や(18c)のような重複形式も出現している。

「できない」という意の表現が断りの理由を示すことから断りの間接発話行為 (indirect speech act) として機能する例は古代から見られる (森野 2014 など) が、「無理」という語がこの用法に拡張されるようになった用例が見出せるのは、今回の調査においては現代に入ってからのことである。

4.2 『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』における「無理」の用例

『現代日本語書き言葉均衡コーパス (The Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese : BCCWJ)』は、新聞・雑誌・広報紙・国会会議録など12種類のレジスターから成る1億語規模のコーパスである。本稿では、「無理」の新しい意味・用法の用例は小説の会話およびウェブサイトと比較的によく用いられていると考え、表8に示す5種類のレジスターに調査の対象を絞った。表8は集計のまとめである。表7と同様、3回以上の重複形式については、その回数を算用数字で示した。

例を(19)に挙げる。(18)と同様、一重下線部は「感動詞的」用法、二重下線部は「述語表現／準「感動詞的」」用法である。【BCCWJ】の今回の調査範囲では、「無理」の「感動詞的」用法の最も早い例は(19a)・(19b)である。なお、(19a)・(19b)は「できない」という意味、(19c)は断り、(19d)はマイナス評価を示している。

- (19) a. 「やってみなきゃわからないよ」「決まってるの！無理！ 絶対無理！ 寝言は夢の中で言って！」

【BCCWJ】 サンプル ID : PB 29_00346, あすか正太『撃破！日本消滅計画』, 2002 年

表8 【BCCWJ】(書籍・ブログ・知恵袋)における「無理」の用例

用法	形式	出版		図書館		特定目的					
		書籍		書籍		ベストセラー		ブログ		知恵袋	
		2001-2005		1986-2005		1976-2005		2008		2005	
		用例数	%	用例数	%	用例数	%	用例数	%	用例数	%
連体修飾	無理な	164	6.8	232	7.3	39	8.2	75	4.3	100	3.7
	無理無理の	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0
	その他	2	0.1	3	0.1	2	0.4	1	0.1	1	0.0
	小計	166	6.9	235	7.4	41	8.6	77	4.4	101	3.8
副詞	無理に	257	10.7	427	13.4	67	14.0	90	5.2	279	10.4
	無理無理に	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0
	無理無理で	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0
	無理	0	0.0	1	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0
	無理無理	0	0.0	0	0.0	1	0.2	1	0.1	0	0.0
	無理やりに	41	1.7	63	2.0	5	1.0	9	0.5	14	0.5
	無理やり	258	10.7	303	9.5	37	7.8	187	10.8	189	7.0
	その他	52	2.2	55	1.7	11	2.3	13	0.7	19	0.7
	小計	608	25.3	849	26.7	121	25.4	302	17.4	502	18.7
動詞	無理する	129	5.4	156	4.9	34	7.1	162	9.3	226	8.4
名詞・補語		776	32.3	929	29.3	134	28.1	270	15.5	308	11.5
名詞・述語		652	27.1	906	28.5	132	27.7	849	48.8	1494	55.6
動詞的／ 述語的 用法	無理	3	0.1	0	0.0	1	0.2	16	0.9	4	0.1
「感動詞的」 用法	無理	2	0.1	2	0.1	3	0.6	29	1.7	17	0.6
	無理無理	1	0.0	0	0.0	0	0.0	13	0.7	1	0.0
	無理3	0	0.0	1	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0
	無理4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0
	小計	3	0.1	3	0.1	3	0.6	44	2.5	18	0.7
複合名詞		67	2.8	96	3.0	11	2.3	16	0.9	35	1.3
不明		0	0.0	1	0.0	0	0.0	2	0.1	1	0.0
計		2404	100.0	3175	100.0	477	100.0	1738	100.0	2689	100.0

b. ミ： カッコいいッス！ コレ乗ったらボクも女のコにモテますかね？

マ： 無理無理。。まずはその浪人生風の無精ヒゲを剃らないと…。

【BCCWJ】 サンプル ID：PB2n_00014,

実著者不明『ちょっと古いハーレーに乗りたい』, 2002 年

c. 昨日クマママさんが、予約注文の梅二十キロを運んで来た。「ついでにお砂糖 4 キロ買ってきて・・・」と欲張りババの声に・・・「無理無理、自転車がつぶれるヨー」

【BCCWJ】 サンプル ID：OY 05_01089, Yahoo! ブログ, 2008 年

d. 「うわ〜キモイキモイキモイ！ 私ああいうの絶対無理。ホント無理」奈美が本当に嫌そうな顔をして小谷君から目を逸らす。俺はおまえが無理なんだけど、知ってた？ と俺は密かに奈美に微笑みかけてやった。

【BCCWJ】 サンプル ID：OB6X_00181, 白岩玄『野ブタ。をプロデュース』, 2004 年

なお、今回の調査においては、5.1 節の会話コーパス、5.2 節の【BCCWJ】ともに、(5)のプラス評価の例は見出せなかった。より新しい時期の、SNS などのより新しいメディアから用例を収集することが今後の課題である。

5. 考察

前章まで、漢語「無理」の意味・用法の通時的变化を概観してきた。このような拡張過程は、歴史語用論 (historical pragmatics)・歴史社会言語学 (historical sociolinguistics)・歴史社会語用論 (historical sociopragmatics) を中心とした分野において指摘されている意味変化の方向性と軌を一にする (Jucker and Taavitsainen (eds.) 2010、高田他編 2011、高田他編 2015、椎名 2016、高田他編 2018 など)。

例えば、高田他編 (2011) は歴史語用論のこれまでの研究成果として、ある表現の意味変化は「命題的・観念的 (propositional / ideational) → テキスト連結的 (textual) → 対人的 (interpersonal)・感情表出的 (expressive)」という方向性のケースが逆方向のケースより多いこと、この変化は線的に変化する必然性や必要性はなく以前の意味が共起したりテキスト連結の意味を経ず感情表出的意味へ変化したりする場合もあること、このように話し手の主観的態度が強まる意味変化は「主観化 (subjectification)」、話し手の聞き手に対する注意が焦点化される意味変化は「間主観化 (intersubjectification)」と呼ばれること、などを指摘している。

「無理」の場合も、「道理がない」という命題の意味から出発し、「できない」という意味からさらに拡張し、行為指示に対する断りといった対人的意味やマイナス・プラスの評価といった感情表出的意味に変化しており、「(間) 主観化 (inter) subjectification」の例と言える¹⁹。

¹⁹ 「できない」という意味の場合は、文脈により対人的・感情表出的意味のいずれも表しうると考える。なお、「(間) 主観化 (inter) subjectification」とは、「主観化 subjectification・間主観化 intersubjectification」の意の慣用的表記である。

文や発話の命題内容以外の機能（テキスト連結的、対人的、感情表出的といった機能）を持つ表現は「語用論的標識（pragmatic markers）」（Brinton 1996, 2017, Fraser 1996, Aijmer and Simon-Vandenberg 2006 など）と呼ばれ、ある表現が「語用論的標識」としての機能を獲得する過程の探究は歴史語用論における主要な研究テーマの一つとなっている²⁰。「無理」の場合も、現代日本語において「感動詞的」用法が観察され、行為指示に対する断りは対人的機能、マイナス・プラスの評価は感情表出的機能をそれぞれ果たしていることから、語用論的標識の一種ととらえられる。

語用論的標識の史的研究は、日本語については、例えば、「やっぱ(り)」「だって」「わけ」「って」など、和語を中心になされてきた²¹。一方、漢語についても、「事実」「道理」などの漢語由来の名詞が和語化し、現代語では語用論的標識として機能しているという報告がある（柴崎 2017, Shibasaki 2018, 2019, forthcoming など）。例えば、(20)のような「事実」の副詞用法は、先行文脈に対する具体例や根拠を提示し、前後の文を繋ぐというテキスト連結的な語用論的機能を果たしていることが指摘されている（柴崎 2017, Shibasaki 2018）²²。

(20) 兄さんは誰よりも今の若い人たちの心をよく知ってゐる。そして事実、東京で若い多くの女の子のお友達もおありの事であつたらうし。 【日国】相馬泰三『田舎医師の子』五、1914年

同様に、高橋・東泉（2018）は「結果」、高橋・東泉・佐藤（2018）は「了解」、Higashiizumi and Takahashi（2020）および高橋・東泉（2019, 2020a）は「勿論」の用例をさまざまなコーパス・データベースからたどり、語用論的標識としての用法へ至る歴史を探っている。これらの漢語はそれぞれの複雑な過程をたどりつつ、「結果」は副詞的・接続詞的用法を、「了解」「勿論」は「感動詞的」用法を発達させ、語用論的標識の機能を担っている²³。こうした漢語の語用論的標識化は、和語化の一端を示している。

²⁰ 語用論的標識の定義にはさまざまな議論があるが、「命題内容や真理関数的内容に関与しない語や構造（a word or a construction...not contribute to the propositional, truth-functional content）」（Aijmer and Simon-Vandenberg 2006：2）という点は研究者間で一致が見られる。語用論的標識の定義、機能、研究背景などについては Brinton（2017：2-11）が詳しい。「語用論的標識」という訳語は澤田他（訳）（2018）、椎名（監訳）（2020）によるが、「語用（論）標識」という訳語もある。また、談話標識（discourse markers）、談話不変化詞（discourse particles）などと呼ばれることもある（澤田他（訳）2018：54）。

²¹ これらの例は Shinzato（2017：308）の Table 1 による。

²² 例（20）は Shibasaki（2018）による。下線は稿者による。「事実」の先行文脈との関係については先行研究でも指摘されている（柴崎 2017：109-114）。なお、柴崎（2017：120）によれば、(20) のような「事実」の用法は、西欧言語学で「投射詞（projector）」として論じられている「先行文脈と関連・対立する内容を後続談話に導入する」表現に通じるものであるという。

²³ 国語学・日本語学の分野においても、漢語の和語化の進行にともなう副詞化（趙 2013、鳴海 2015 など）、現代語における副詞化・接続詞化（三枝 2013）が指摘されている。なお、趙（2013）他、趙の一連の研究では、副詞の他に、狭義の副詞に入らないものも含めて副用語と呼んでいる。漢語副詞の研究史の詳細は例えば鳴海（2015）を参照されたい。

表1における「無理」の段階Ⅳ～Ⅶも、これらの語と同様に、語用論的標識として機能していると言えるだろう。

6. まとめと課題

本稿では、古代から現代に至る「無理」の用例を収集し、語用論的標識に至る意味・用法の拡張の過程を観察してきた。表1で暫定版として示した拡張の過程を本稿での観察に基づき精緻化すると、表9のようになると現時点では考えられる。ただし、表9は仮説の段階であり、それぞれの用法の意味・機能の関連は、今後、さらに検討が必要である。

例えば、東泉・高橋（2020）によれば、20歳前後の大学生の内省では、「無理無理」のアクセントは「感動詞的」用法では「高低高低」である一方、副詞用法では「低高高高」であり、一語化は副詞用法が先行していると言える。「感動詞的」用法のアクセントの今後について、注視を続ける必要がある。

また、「無理」に見られる現象と他の表現との関連もさらに追究していく必要がある。例えば、「無理」は図1の段階Ⅰ～Ⅳ”は否定的意味であるが、段階Ⅳ””では肯定的意味に変化している。否定的意味を持つ表現が肯定的意味に転じる変化は、現代日本語の若者言葉における「ヤバイ」などにも見られ（佐野 2012）、歴史言語学などで「意味の向上」として知られる通言語的な意味変化の一つである（例えば堀田 2018：155－166）。

表9 「無理」の意味・用法の拡張（暫定版その2）

段階	Ⅰ	Ⅰ’	Ⅱ	Ⅱ’	Ⅱ”
主な形式	「理無し」	「無理」	「無理に」	「無理やりに」	「無理無理(に)」
意味・機能	道理がない	道理がない	強いて	副詞	副詞
登場	古代	鎌倉	室町	近世	近代
用例	(1a)・(7a) (11a)・(11b)	(13a)・(13d)・ (13e)	(1b)・(7b) (13b)・(13c)		(15)・(16)

段階	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ’	Ⅳ”	Ⅳ””
主な形式	連体・述語	「感動詞的」	「感動詞的」	「感動詞的」	「感動詞的」
意味・機能	できない	できない	断り	マイナス評価	プラス評価
登場	江戸	現代	現代	現代	現代
用例	(1c)・(7c) (14c)・(14d)	(2)・(10a)・(17) ・(18a)・(18d)・ (19a)・(19b)	(3)・(10a)・ (18b)・(18c)・ (19c)	(4)・(10b)・ (19d)	(5)

また、「無理無理」などの重複形式の増加もまた、近年盛んに見られる現象である。類例として、「都度都度」(北原編 2011)、「ほほほほ」(野口 2016)などが挙げられる²⁴。こうした重複表現には強調や感情の共有などの機能があり、語用論的標識の特徴を示していると考えられる²⁵。

さらに、言語の第一機能は「話者の内的状態の表出」であり(氏家 1996)、漢語「無理」の「感動詞的」用法への拡張は、外来語だった「無理」が日本語話者の内的状態を表出するという機能を担うほどにまで和語化が進んでいることを示しているとも言える。このような観点から本研究を捉え直していくことも、今後の大きな課題である。

謝 辞

本稿は、高橋・東泉(2020b)をもとに、大幅に加筆修正したものである。貴重なコメントをくださった諸氏に感謝申し上げます。特に、中俣尚己氏・大島菜実馨氏には大島(2019)の閲覧をご快諾いただきました。また、山本ゆうか氏・佐藤万里氏には SNS などをめぐる貴重な情報をご提供いただきました。厳しく的確なコメントをくださった査読者にも、心より感謝申し上げます。なお、本研究は日本学術振興会科学研究費補助金による基盤研究(C)「英語破格構文の歴史的発達と談話基盤性について—構文化の時間的・空間的拡がり—」(研究代表:柴崎礼士郎、課題番号:19K00693)、同「漢字文化圏における漢語の語用論的標識化」(研究代表:高橋圭子、課題番号:20K00650)の助成を受けています。

参考文献

- 氏家洋子(1996)『言語文化学の視点—「言わない」社会と言葉の力—』おうふう。
- 大島菜実馨(2019)「Twitterにおける『無理』の表記と用法の関係—『かわいすぎてむり』—」京都教育大学 2018 年度卒業論文。
- 柏野和佳子(2019)「『日本語日常会話コーパス』モニター公開版に見られる応答表現」国立国語研究所『言語資源活用ワークショップ発表論文集』4, pp. 368–380. <<http://doi.org/10.15084/00002589>>
- 柏野和佳子(2020)「『日本語日常会話コーパス』モニター公開版に見られる感動詞以外の応答表現」国立国語研究所『言語資源活用ワークショップ LRW 2020 プログラム』
<https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/LRW_2020_PDF/P_4-7.pdf>
- 北原保雄(編)(2011)『問題な日本語その4』大修館書店。
- 現代日本語研究会(編)(2011)『合本 女性のことば・男性のことば(職場編)』ひつじ書房。
- 三枝令子(2013)「名詞から副詞, 接続詞へ」『一橋大学国際教育センター紀要』4, pp. 49–61.
<<https://doi.org/10.15057/26706>>

²⁴ 鈴木(2016)、Ono and Suzuki(2018)は動詞由来の「あるある」「いるいる」を「反応表現(reactive tokens)」と呼び、「会話のある瞬間において主たる話し手が行った発話に対して聞き手が反応するときの言語表現」(鈴木 2016, p. 63)と定義している。

²⁵ 中俣尚己氏のご教示による。

- 定延利之（2015）「感動詞と内部状態の結びつきの明確化に向けて」友定賢治（編）『感動詞の言語学』ひつじ書房, pp. 3-14.
- 佐野真一郎（2012）「『やばい』の変化を分析する」日比谷潤子（編著）『はじめて学ぶ社会言語学：ことばのバリエーションを考える 14 章』ミネルヴァ書房, pp. 209-226.
- 澤田治美・澤田治・澤田淳（訳）（2018）『談話分析キーターム辞典』開拓社. Paul Baker and Sibonile Ellece（著）（2011）*Key Terms in Discourse Analysis*. London: Continuum.
- 椎名美智（2016）「歴史語用論」加藤重広・滝浦真人（編）『語用論研究法ガイドブック』ひつじ書房, pp.105-131.
- 椎名美智（監訳）（2020）『新しい語用論の世界』研究社. Jonathan Culpeper and Michael Haugh（著）（2014）*Pragmatics and the English Language*. London: Palgrave Macmillan.
- 柴崎礼士郎（2017）「談話構造の拡張と構文化について：近現代日本語の『事実』を中心に」加藤重広・滝浦真人（編）『日本語語用論フォーラム 2』ひつじ書房, pp. 107-133.
- 鈴木亮子（2016）「会話における動詞由来の反応表現—「ある」と「いる」を中心に—」井出祥子・藤井洋子（監修）藤井洋子・高梨博子（編）『コミュニケーションのダイナミズム』ひつじ書房, pp. 63-83.
- 高田博行・椎名美智・小野寺典子（編）（2011）『歴史語用論入門』大修館書店.
- 高田博行・渋谷勝己・家入陽子（編）（2015）『歴史社会言語学入門』大修館書店.
- 高田博行・小野寺典子・青木博史（編）（2018）『歴史語用論の方法』ひつじ書房.
- 高橋圭子・東泉裕子（2018）「名詞『結果』の用法の拡張—近代語および現代語コーパスの用例より—」社会言語科学会『社会言語科学』21: 1, pp.255-270. <https://doi.org/10.19024/jajls.21.1_255>
- 高橋圭子・東泉裕子・佐藤万里（2018）「『了解』は使わないように」「了解です！」国立国語研究所『言語資源活用ワークショップ発表論文集』3, pp.57-67. <<http://doi.org/10.15084/00001638>>
- 高橋圭子・東泉裕子（2019）「『勿論』考」国立国語研究所『言語資源活用ワークショップ発表論文集』4, pp. 128-138. <<http://doi.org/10.15084/00002561>>
- 高橋圭子・東泉裕子（2020a）「語用論的標識としての『勿論』の歴史」東洋大学人間科学総合研究所『東洋大学人間科学総合研究所紀要』22, pp.197-208.
<https://www.toyo.ac.jp/~media/Images/Toyo/research/labo-center/ihs/bulletin/kiyou/22/22_p197-208.ashx?la=ja-JP&hash=CCC3928BD2B4A6A226988903FD3588920BCC8C28>
- 高橋圭子・東泉裕子（2020b）「コーパスに見る漢語『無理』の歴史」国立国語研究所『言語資源活用ワークショップ LRW 2020 プログラム』<https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/LRW2020PDF/P3-4.pdf>
- 趙英姫（2013）「近現代の漢語副詞の成立」野村雅昭（編）『現代日本漢語の探究』東京堂出版, pp. 214-233.
- 鳴海伸一（2015）『日本語における漢語の変容の研究：副詞化を中心として』ひつじ書房.
- 野口恵子（2016）『「はははは」・「いまいま」クイズおかしな日本語』光文社新書, 光文社.
- 東泉裕子・高橋圭子（2020）「現代日本語における反応表現としての漢語『無理』」第 11 回日本語実用言語学国際会議（ICPLJ 11）ポスター発表、2020 年 12 月 20 日
- 藤村逸子・大曾美枝子・大島デイヴィッド義和（2011）「会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究」藤村逸子・滝沢直宏（編）『言語研究の技法：データの収集と分析』, ひつじ書房, pp. 43-71.
- ポストメディア編集部（編）（2018）『推しが尊すぎてしんどいのに語彙力がなさすぎてしんどい：腐女子の感情類語辞典』一迅社.

- 堀田隆一 (2018) 「第8章 意味変化・語用論の変化」服部義弘・児馬修(編)『歴史言語学』朝倉書店, pp.151-169.
- 森野崇 (2014) 「平安・鎌倉時代の受諾・拒否に見られる配慮表現」野田尚史・高山善行・小林隆(編)『日本語の配慮表現の多様性: 歴史的变化と地理的・社会的変異』くろしお出版, pp.93-110.
- 山岸凉子 (1994) 「ハーピー」『天人唐草 自選作品集』文春文庫ビジュアル版, 文藝春秋, pp. 67-116.
- Aijier, Karen and Anne-Marie Simon-Vandenberg (2006) (eds.) *Pragmatic Markers in Contrast. Studies in Pragmatics 2.* Amsterdam : Elsevier.
- Brinton, Laurel J. (1996) *Pragmatic Markers in English : Grammaticalization and Discourse Functions.* Berlin/New York : Mouton de Gruyter.
- Brinton, Laurel J. (2017) *The Evolution of Pragmatic Markers in English : Pathways of Change.* Cambridge : Cambridge University Press.
- Fraser, Bruce (1996) "Pragmatic markers". *Pragmatics* 6 : 2, pp. 167-190.
- Higashiizumi, Yuko and Keiko Takahashi (2020) "The development and use of *mochiron* as a pragmatic marker in Japanese", 『日本認知言語学会論文集』 20, pp. 483-488.
- Jucker, Andreas H. and Irma Taavitsainen (eds.) (2010) *Historical Pragmatics.* Berlin/New York : Mouton de Gruyter.
- Ono, Tsuyoshi and Ryoko Suzuki (2018) "The use of frequent verbs as reactive tokens in Japanese every day talk : Formulaicity, florescence, and grammaticization", *Journal of Pragmatics* 123, pp. 209-219.
- Shibasaki, Reijirou (2018) "From the inside to the outside of the sentence : Forming a larger discourse unit with *jijitsu* 'fact' in Japanese". In Sylvie Hancil, Tine Breban and José Vicente Lozano (eds.), *New Trends on Grammaticalization and Language Change.* Amsterdam : John Benjamins, pp. 333-360.
- Shibasaki, Reijirou (2019) "On the rise of *douride* 'no wonder' as a projector and the reformulation of discourse sequential relations in Japanese". In Shin Fukuda, Mary Shin Kim and Mee-Jeong Park (eds.), *Japanese/Korean Linguistics 25.* Stanford, CA : CSLI Publications, pp. 383-395.
- Shibasaki, Reijirou (Forthcoming) "Reanalysis and the emergence of adverbial connectors in the history of Japanese". In Alexander Haselow and Sylvie Hancil (eds.), *Studies at the Grammar-Discourse Interface.* Amsterdam : John Benjamins.
- Shinzato, Rumiko (2017) "Grammaticalization of PMs/DMs/MMs in Japanese". In Chiara Fedriani, Andrea Sanso (eds.), *Pragmatic Markers, Discourse Markers and Modal Particles : New perspective.* Amsterdam : John Benjamins, pp. 305-333.

辞典

- 北原保雄(編) (2010) 『明鏡国語辞典 第二版』大修館書店.
- 見坊豪紀・市川孝・飛田良文・山崎誠・飯間浩明・塩田雄大(編) (2014) 『三省堂国語辞典 第七版』三省堂.
- 新村出(編) (2018) 『広辞苑 第七版』岩波書店.
- 日本語学会(編) (2018) 『日本語学大辞典』明治書院
- 西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫・柏野和佳子・星野和子・丸山直子(編) (2019) 『岩波国語辞典 第八版』岩波書店.
- 平凡社(編) (1926 初版・1974 復刻版) 『大辞典』平凡社.
- 室町時代語辞典編修委員会(編) (2001) 『時代別国語大辞典 室町時代編五』三省堂.

諸橋徹次（著）鎌田正・米山寅太郎（修訂増補）（2018）『大漢和辞典』大修館書店。

山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄・上野善道・井島正博・笹原宏之（編）（2011）『新明解国語辞典 第七版』三省堂。

注釈・現代語訳

宇都宮清吉（訳）（1990）『顔氏家訓』東洋文庫 514 平凡社。

宇野精一（1982）『顔氏家訓』中国古典新書 明德出版社。

遠藤嘉基・春日と男（校注）（1967）『日本古典文学大系 70 日本霊異記』岩波書店。

楠山春樹（1981）『新釈漢文大系 54 淮南子（上）』明治書院。

高木市之助・五味智英・大野晋（校注）（1962）『日本古典文学大系 7 万葉集四』岩波書店。

戸川芳郎・木山英雄・沢谷昭次（1974）『中国古典文学大系 淮南子・説苑（抄）』平凡社。

永積安明・安良岡康作（校注・訳）（1995）『新編日本古典文学全集 44 方丈記・徒然草・正法眼蔵随聞記・歎異抄』小学館。

長澤規矩也（編）（1975）『和刻本漢詩集成第七巻』汲古書院。

西尾実・鏡島元隆・酒井得元・水野弥穂子（校注）（1965）『日本古典文学大系 81 正法眼蔵・正法眼蔵随聞記』岩波書店。

林田慎之助（訳）（2018）『顔氏家訓』講談社学術文庫，講談社。

関連 URL

漢文委員会 <http://blog.livedoor.jp/kanbuniinkai/10-rihaku Joseishi/archives/7050730.html>

コーパス検索アプリケーション『中納言』 <https://chunagon.ninjal.ac.jp/>

国文学研究資料館 日本古典文学大系データベース <http://base1.nijl.ac.jp/~nkbthdb/>

国立国語研究所コーパス開発センター https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/

テレビ朝日 日本語研究室 <https://www.tv-asahi.co.jp/announcer/nihongo/labo/body.html>

ananNEWS 2018 年 11 月 10 日 <https://ananweb.jp/news/201811/>

Japanese Discourse Research Initiative (2017)「発話単位ラベリングマニュアル」version 2.1.

<https://www.jdri.org/resources/manuals/uu-doc-2.1.pdf>

Japan Knowledge Lib

<https://japanknowledge.com/library/>

『日本国語大辞典 第二版』『デジタル大辞泉』『角川古語大辞典』

Weblio 辞書『三省堂 大辞林 第三版』

<https://www.weblio.jp/cat/dictionary/ssdjj>

【Abstract】

The history of the Sino-Japanese compound *muri* ‘no reason’ as a pragmatic marker in Japanese

Keiko TAKAHASHI* · Yuko HIGASHIIZUMI**

This study examines the semantic and functional extension of the Sino-Japanese compound *muri* 無理 ‘no reason’. In Old Japanese, 無理 was purportedly used individually with its original Chinese meaning, i.e. 無 *nashi* ‘no’ and 理 *kotowari* ‘reason’. It appeared to have become a compound by Early Middle Japanese and was subsequently used as the adverb ‘forcibly’, attached by the adverbial form of the copula *-ni*, in late Middle Japanese. After that, it was used as the nominal predicate ‘be impossible’ and as a noun in Early Modern Japanese. The adverbial use of 無理 was attested without *-ni* in Early and Late Modern Japanese. In contemporary Japanese, the bare form 無理 serves interjectional functions, e.g. refusal, negative assessment and positive assessment, and can thus be regarded as a pragmatic marker.

Key words : *muri*, extension, interjectional function, bare form, pragmatic marker

本稿では、「無理」という漢語の意味・用法の拡張の歴史を用例に基づき検討する。古代においてはこの文字列は「理（ことわり）」と「無し」の二語であったが、中世前期には一語化したようである。中世後期には「無理に」の形式による副詞用法で「強引に」の意味、近世には述語や補語の用法で「できない」という意味に拡張した。近世・近代の副詞用法ではコピュラ「に」の脱落や「無理やり（に）」などの部分重複形式が観察されるようになる。現代ではさらに、コピュラなどを伴わない裸の形式で、「無理」単独や「無理無理」などの重複形式により、「感動詞的」用法への拡張も見られる。これには、「できない」という意味のほか、行為指示に対する断り、マイナスやプラスの評価を示す例などが観察される。これらの新しい用法は、語用論的標識の機能を担うと考えられる。

キーワード：「無理」、拡張、裸の形式、「感動詞的」用法、語用論的標識

* A visiting research fellow of the Institute of Human Sciences at Toyo University

** A part-time lecturer in the School of Interdisciplinary Mathematical Sciences at Meiji University